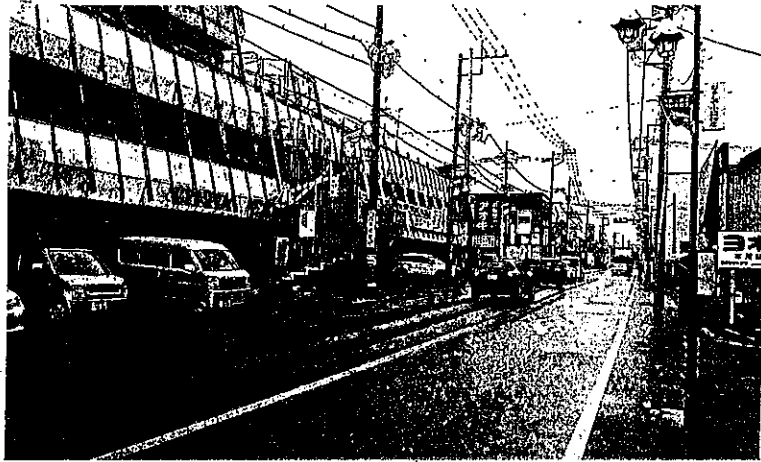


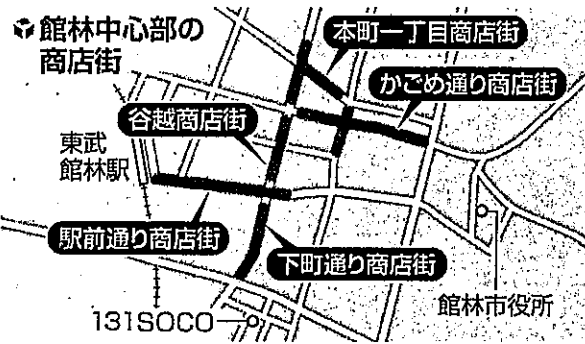
# 空き店舗再生 商店街元気に



## 官民連携で創業支援

館林市が、空き店舗や空き家などを改修し、新たな用途を見いだして再生する「リノベーション」の手法を指南する講座を今月末に開講する。人口減少を背景にした中心市街地の空洞化を食い止めるため、官民連携で地域の活性化を進めるのが狙いで、受講者のアイデアをまっすぐに生かす。

### 館林市がリノベーション講座



講座の対象エリアとなる館林中心部の商店街(6日、館林市)

館林の中心市街地には、かつての城下町の名残である歴史的建造物が点在し、五つの商店街が広がる。だが、後継者不足や大型店舗の郊外進出で閉める店が増え、今年3月末時点で計168店のうち47店が空き店舗となっている。市はそこで、風情ある町

並みは極力変えずににぎわいを創出する手段としてリノベーションに着目。建物を新設するよりも初期投資がかからず、若い人や女性の創業にしやすいことから、館林商工会議所と県との共催で11月30日、12月2日の3日間、実践的な講座を開くことにした。定員は24人。受講者は3

### 古い倉庫街 ▶ おしゃれ店舗 民間の成果事例も



木材がむき出しになった倉庫の中で談笑する森田さん(左)と細野さん

館林市内には民間のリノベーションで一定の成果を上げている事例があり、市は、リノベーションの身近なモデルと位置づけている。家具店やカフェ、観葉植物を売る店など5店が軒を連ねる同市緑町の「131SOCO」。かつてはコの字形に並んだ倉庫街だったが、5年前からこれらの店舗が順次オープン。今月末には美容室が出店予定だ。

住宅街の中で、決して目立つ場所ではない。以前は人の往来もほとんどなかったが、現在、日中は多くの買い物客が訪れる。この流れをつくったのが、市内でアンティーク家具の店を経営していた細野健太さん(39)だ。大正時代に建てられた倉庫街の外観や、高い天井を支えるむき出しの梁、古い木材の質感などに着目し、「隠れ家的で面白い。(商品の)家具

グループに分かれ、専門家の助言を受けながら、市が選んだ中心市街地の空き物件を題材に事業計画を立てる。最終日には物件のオーナーに計画を発表し、理解を得た上でその後の事業化を目指す。閉講後も、オーナーとの交渉などでは市や専門家の助言を受けられるほか、商議所などの創業支援ネットワークの利用も可能だ。受講料は1万円。12月までに市商業観光課(0276・72・4111)に申し込む。

にも調和する」と、倉庫の一角を借りて独自に内部を改装した。出店希望が相次ぐようになったのはそれからだ。こうした魅力を発掘できたのは、部外者の細野さんだったからだろう。「古い倉庫でにぎわいを

創り出せるとは思わなかった」。倉庫を所有する「館林倉庫」常務の森田信一郎さん(43)は意外な活用策に感心したという。倉庫を物置きに使っていた顧客には別の物件を紹介し、出店希望者に協力。さらなる集客を図ろうと、細野さんたちとともに今後、倉庫全体での「青空市」の開催も検討している。(中村俊平)